

高砂香料工業株式会社

2025年3月期 決算説明会

証券コード:4914

2025年5月26日

目次

I. 事業概況(ハイライト)

II. 2025年3月期 通期業績

III. 2026年3月期 通期業績予想

IV. 資本政策

V. トピックス

VI. Appendix

I. 事業概況(ハイライト)

2025年3月期の事業概況、2026年3月期収益計画の状況 1/2

【2025年3月期】事業環境

- 香料市場は、全世界ベースで年間約4%程度伸長
- 原材料価格は、年間を通じて中計策定の前提よりやや低い水準で推移
- 為替レート（USD・EUR）は、2024年度中は想定に対して円安に推移

【当初想定】USD = 140円、EUR = 150円

【通期実績】USD = 152円、EUR = 164円

【2025年3月期】業績・資本収益性

売上高

前期比+17%増加

過去最高の2,292億円

営業利益

前期比+130億円増加

過去最高の153億円

営業利益率は6.7%

ROE

目標8%を上回る9.8%

海外

米州・アジアのフレーバー、欧州のフレグランスが伸長。欧米向け医薬品中間体の出荷増

日本

各事業の出荷は堅調に推移。欧米向け医薬品中間体の出荷が増加

海外

増収の他、原材料最適化を通じ売上総利益が増加

日本

医薬品中間体の輸出増加、製品構成最適化を通じ売上総利益の改善

業績改善に加え、政策保有株式の一部売却により純利益が増加

2025年3月期の事業概況、2026年3月期収益計画の状況 2/2

【2025年3月期】市場評価の向上

PBR 株価上昇に伴い、決算期末時点で0.86倍まで回復

成長投資 磐田工場の医薬品中間体生産設備の増設、国内鎌倉新研究所の準備、中国新会社の設立

配当 2023年度の1株配当70円に対し2024年度は240円。中計目標を上回る配当性向 35%、DOE 3.4%

開示 開示情報の充実（統合報告書、資本政策目標、事業別損益、キャピタルアロケーション）

対話 中長期保有の国内及び海外投資家を中心に面談

【2026年3月期】収益計画の状況

- 香料市場は、全世界ベースで年間約4%程度の伸長を期待
- ファインケミカル事業では、主要顧客向け製品切り替えのため、海外向けの出荷は一時的に減少
- 原材料価格は、2024年度に対し横ばいとなる前提
- 2025年度収益計画上の為替レート（USD・EUR）は、中計策定時の想定より円安に設定

【収益計画】 USD = 150円、EUR = 160円

【中計策定】 USD = 140円、EUR = 150円

中期3ヵ年経営計画【NGP-2】の取組み状況

【2025年3月期 ～中計1年目～】成果

海外の成長	事業軸での成長戦略：フレーバーでは、有力マルチナショナル顧客への出荷が伸長 フレグランスでは高付加価値の製品カテゴリーで出荷が伸長 新規顧客の開拓：アロマイングリディエーツでは、農業分野等の新領域を開拓 ファインケミカルでは、新規触媒ビジネスの獲得
国内の収益性改善	売上総利益の最適化：フレーバー・フレグランスでは高付加価値領域で売上拡大したが、収益性に課題有り アロマイングリディエーツでは、高付加価値のスペシャリティ品の出荷伸長 ファインケミカルでは、欧米向け医薬品中間体の出荷増加
サステナブルな経営	Sustainability2030の実行：国内合成工場で再生エネルギーの活用推進、サプライヤーエンゲージメント活動推進 コーポレート基盤の強化：米国子会社で新基幹システム導入後の安定化

【2026年3月期 ～中計2年目～】取組み

海外の成長	事業軸での成長戦略：フレーバーでは、マルチナショナル顧客へのビジネス拡大に向け、グローバル基盤・生産供給体制を構築 新規顧客の開拓：フレグランスでは、高付加価値の製品カテゴリーおよび新興市場（中東、中南米、インド）の開拓に更に注力
国内の収益性改善	売上総利益の最適化：フレーバーおよびフレグランスでは高付加価値領域の推進とともに、生産・物流効率化 アロマイングリディエーツでは、高付加価値のスペシャリティ品の更なる拡販 ファインケミカルでは、磐田工場の医薬品中間体生産設備の安定稼働
サステナブルな経営	Sustainability2030の実行：ライフサイクルアセスメントへの取組み推進 コーポレート基盤の強化：欧州子会社での新基幹システム導入および安定化

II. 2025年3月期 通期業績

2025年3月期 通期業績

[単位：億円]	2024/3	2025/3	前期比	為替影響除く 前期比
売上高	1,959	2,292	+17.0%	+11.7%
売上総利益 売上総利益率	565 28.8%	774 33.8%	+37.0% +4.9P	-
販売管理費	542	621	+14.6%	-
営業利益 営業利益率	23 1.2%	153 6.7%	+562.4% +5.5P	+538.2%
経常利益	47	153	+225.3%	-
親会社株主に属する 当期純利益	27	133	+393.8%	-
EBITDA	101	235	+130.5%	-
ROE	2.2%	9.8%	+7.6P	-
期中平均為替レート USD	141円	152円	+11円	
期中平均為替レート EUR	152円	164円	+12円	

POINT!

売上高

- 過去最高の売上高2,292億円を達成
 - 欧米向け医薬品中間体の出荷増
 - 海外の成長

営業利益

- 過去最高の営業利益153億円を達成
 - 増収の他、製品構成・販売価格・原材料の最適化を通じて売上総利益が改善

当期純利益

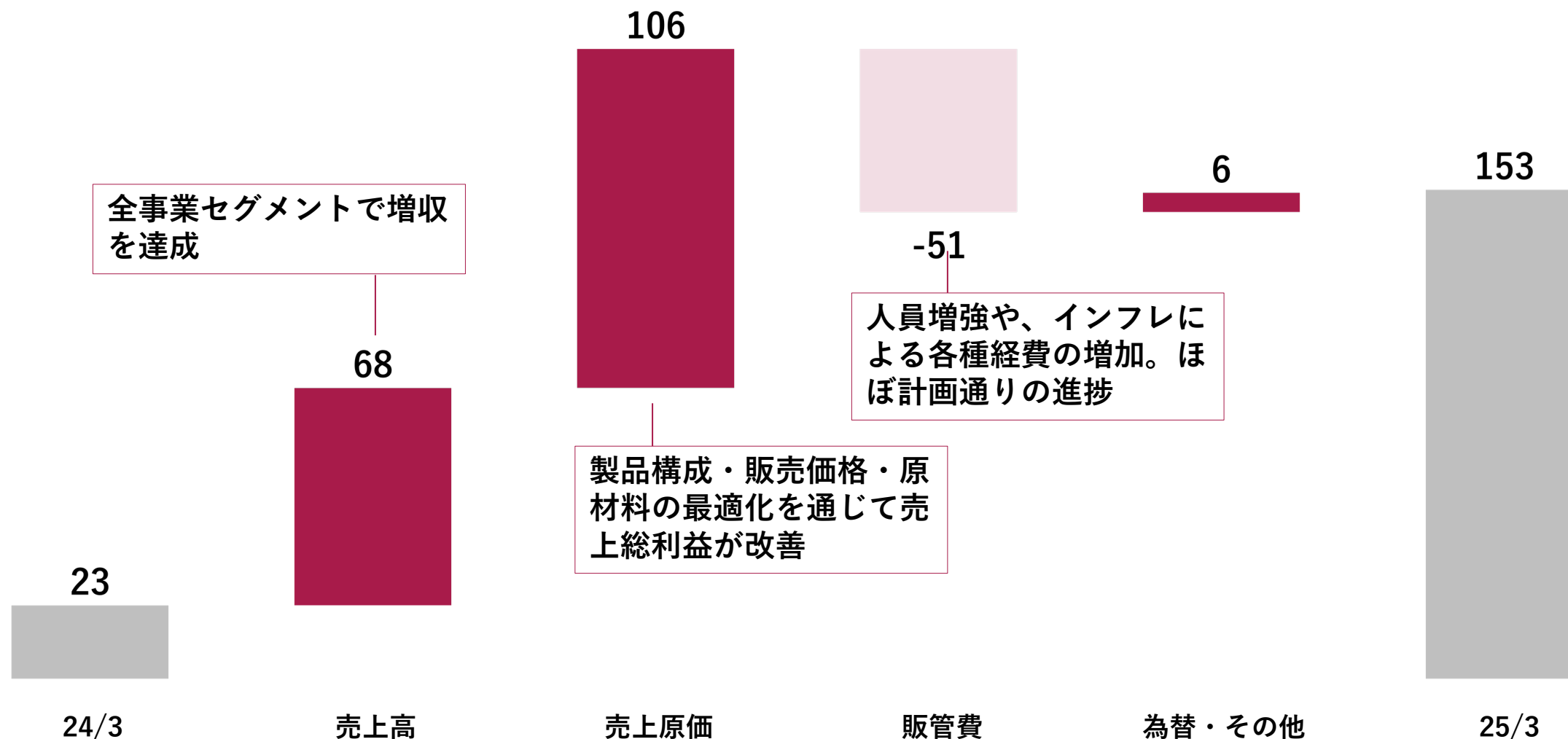
- 投資有価証券売却益27億円(前期比+18億円)
 - 資本効率の向上とCFの改善を図るため売却
 - 政策保有株式対純資産比率13.5%

営業利益の増減分析

[単位：億円]

増益

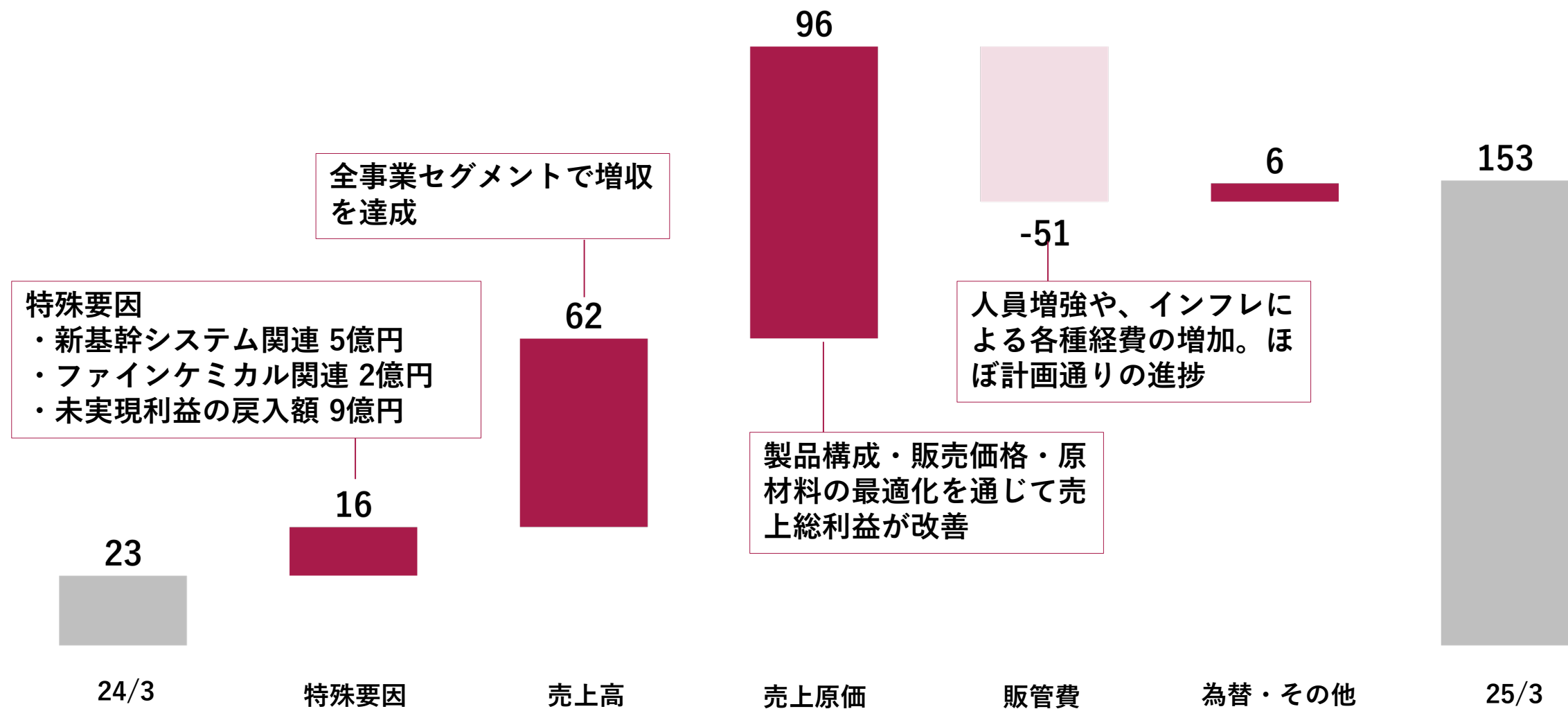
減益



営業利益の増減分析

[単位：億円]

増益 減益



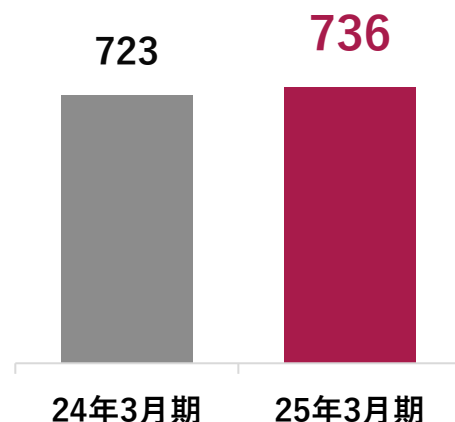
地域セグメント

[単位：億円]		売上高				営業利益			
		2024/3	2025/3	前期比	為替影響除く 前期比	2024/3	2025/3	前期比	為替影響除く 前期比
日 本		723	736	+1.7%	-	14	45	+229.5%	-
米 州		503	665	+32.2%	+23.4%	2	26	+1514.5%	+1402.1%
欧 州		333	393	+18.2%	+9.5%	△12	25	-	-
アジア		400	498	+24.5%	+16.8%	22	49	+122.9%	+110.1%
調 整		-	-	-	-	△2	9	-	-
合 計		1,959	2,292	+17.0%	+11.7%	23	153	+562.4%	+538.2%
POINT!		日 本	アロマイングリディエント事業での製品構成の最適化やファインケミカル事業での売上増加を主因として利益率が改善						
		米 州	前期末に発生した出荷調整が改善。ファインケミカル事業の売上増加						
		欧 州	製品構成・販売価格・原材料の最適化を通じて売上総利益が改善						
		アジア	シンガポール子会社、インドネシア子会社が好調に推移						
		調 整	前期末に計上した未実現利益の実現。および、今期末の未実現利益計上が僅少						

地域セグメント（日本）

[単位：億円]

売上高
+1.7%

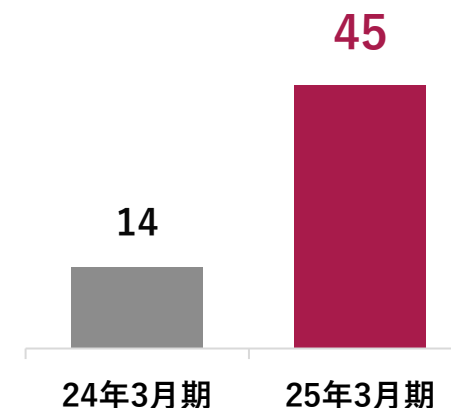


- フレーバー事業：飲料関連等が堅調に推移
- フレグランス事業：ランドリーケア関連等が堅調に推移
- アロマイングリディエーツ事業：スペシャリティ品が好調に推移
- ファインケミカル事業：米国子会社を經由して販売している医薬品中間体が好調に推移し、セグメント間の内部売上高が伸長。
(一部、前期末に出荷調整中であつた大型案件の販売が今期に確定)



[単位：億円]

営業利益
+229.5%

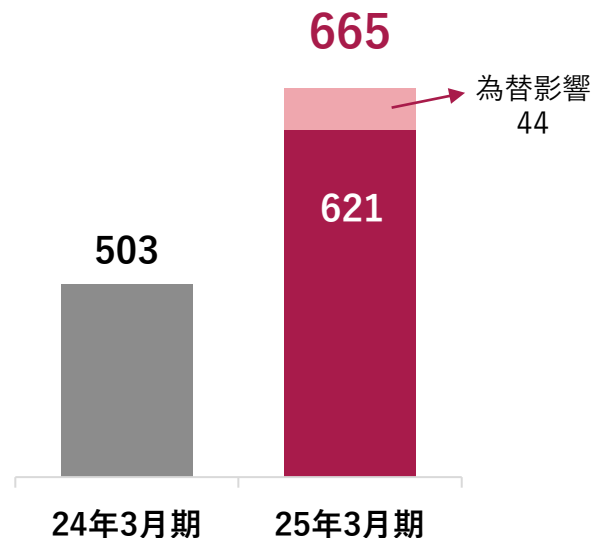


- アロマイングリディエーツ事業での製品構成の最適化やファインケミカル事業での売上増加を主因として利益率が改善

地域セグメント（米州）

[単位：億円]

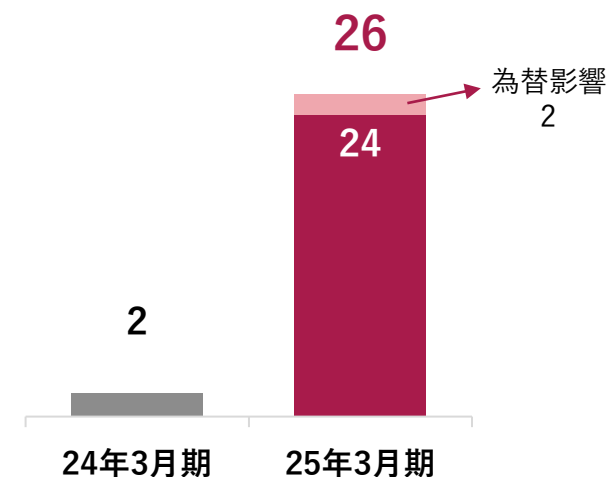
売上高
+32.2%



- 前期末に米国子会社で新基幹システム導入に伴い発生した出荷調整が概ね改善
- ファインケミカル事業の医薬品中間体が好調に推移

[単位：億円]

営業利益
+1514.5%

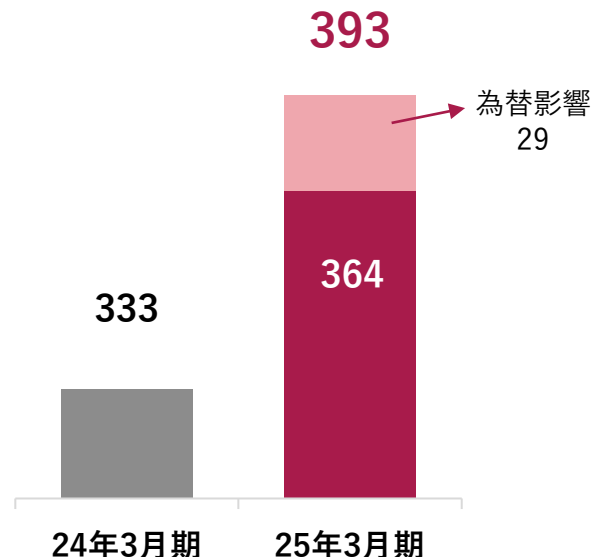


- 新基幹システム導入対応等により経費は増加したものの、増収に加え、製品構成・販売価格・原材料の最適化を通じて売上総利益が改善

地域セグメント（欧州）

[単位：億円]

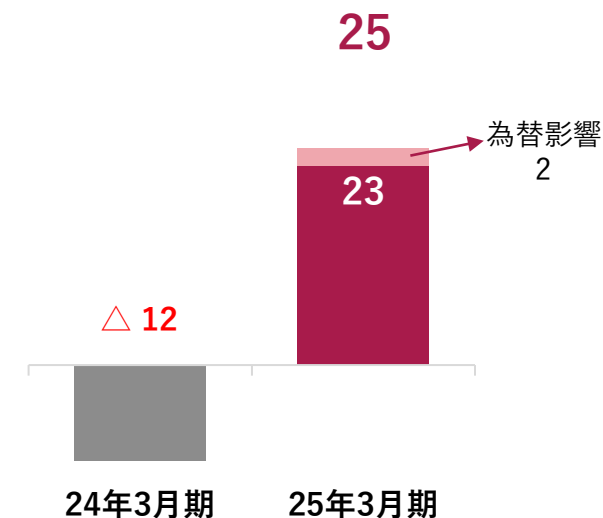
売上高
+18.2%



- フレーバー事業：アフリカ市場向けセイボリーの好調により増収
- フレグランス事業：ファブリックケア、ファインフレグランス関連の好調により増収
- アロマイングリディエーツ事業：中近東の地政学リスクの高まりによるアジア競合の代替需要。欧米競合の事故影響による代替需要の取り込み

[単位：億円]

営業利益
+37億円

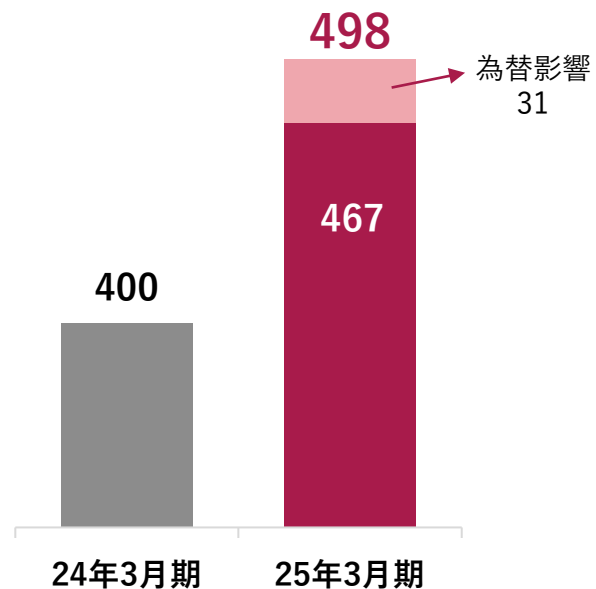


- 24年3月期に計上した在庫評価の特殊要因は25年3月期は発生せず、製品構成・販売価格・原材料の最適化を通じて売上総利益が改善

地域セグメント（アジア）

[単位：億円]

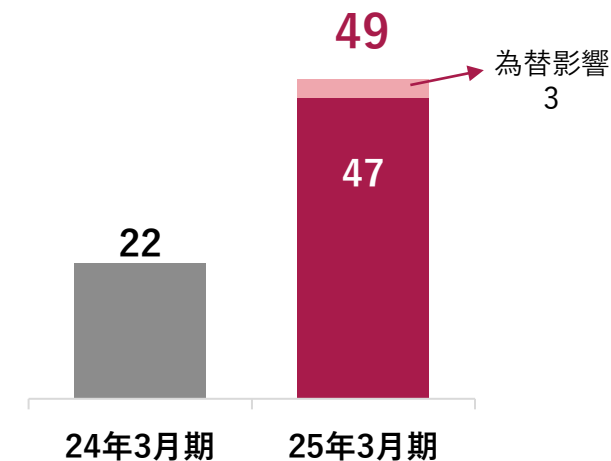
売上高
+24.5%



- 中国：販路拡大が進展し、飲料関連が好調に推移
- 東南アジア：主要顧客からの需要取り込みや新規案件開拓が進捗

[単位：億円]

営業利益
+122.9%



- 事業拡大に伴う人員増などの経費増加があったものの、製品構成・販売価格・原材料の最適化を通じて売上総利益が改善

事業セグメント

[単位：億円]	売上高				営業利益			
	2024/3	2025/3	前期比	為替影響除く 前期比	2024/3	2025/3	前期比	為替影響除く 前期比
フ レ ー バ ー	1,092	1,198	+9.8%	5.7%	12	52	+351.0%	+318.5%
フ レ グ ラ ン ス	627	745	+18.8%	+12.1%	△14	20	-	-
ア ロ マ イ ン グ リ デ ィ エ ン ツ	130	157	+20.7%	+15.6%	9	26	183.8%	182.3%
フ ァ イ ン ケ ミ カ ル	97	178	+84.0%	+72.3%	4	44	946.2%	936.8%
そ の 他	14	14	△0.1%	△0.1%	12	12	△3.0%	△3.0%
合 計	1,959	2,292	+17.0%	+11.7%	23	153	+562.4%	+538.2%
P O I N T !	フ レ ー バ ー	米州・アジアの飲料等が好調に推移						
	フ レ グ ラ ン ス	米州のエアケア、欧州のファインフレグランス、アジアのファブリックケア等が好調に推移						
	ア ロ マ イ ン グ リ デ ィ エ ン ツ	スペシャリティが好調に推移						
	フ ァ イ ン ケ ミ カ ル	欧米向け医薬品中間体の出荷が増加						
	そ の 他	不動産賃貸事業に係る賃貸収入等で構成						

2025年3月期 実績（単体 事業セグメント）

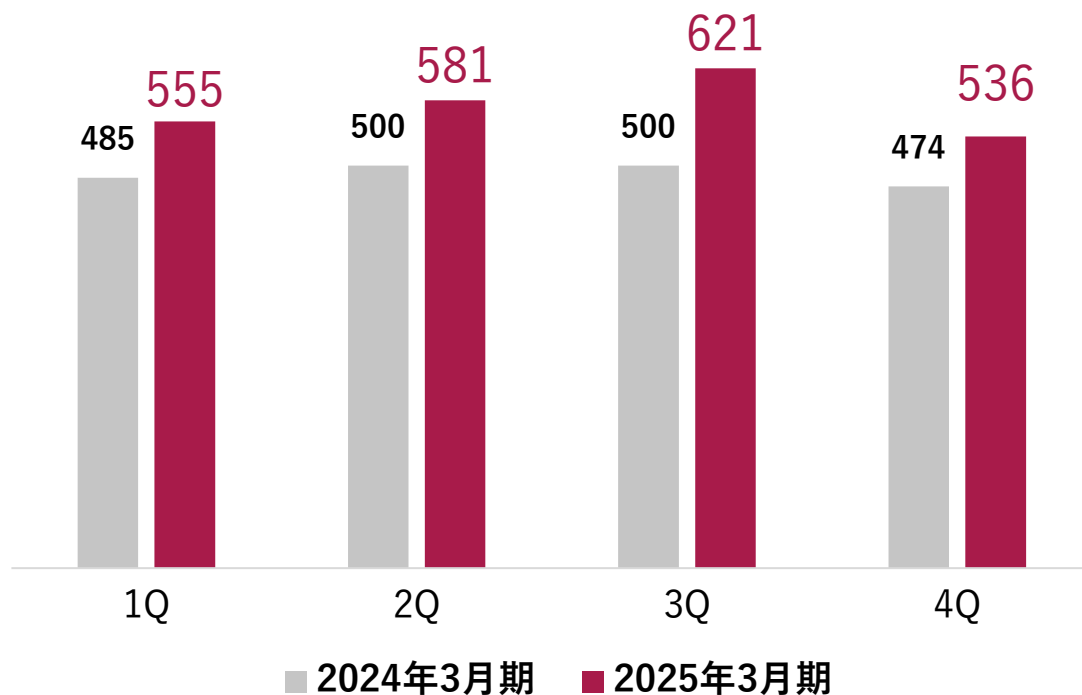
[単位：億円]	売上高			営業利益		
	※2024/3	2025/3	前期比	※2024/3	2025/3	前期比
フ レ ー バ ー	420	433	+3.1%	△11	△11	-
フ レ グ ラ ン ス	76	88	+15.4%	△10	△8	-
ア ロ マ イ ン グ リ デ ィ エ ン ツ	112	120	+7.5%	3	18	+463.0%
フ ア イ ン ケ ミ カ ル	113	157	+38.9%	13	28	+126.1%
そ の 他	17	18	+0.6%	12	12	△2.9%
合 計	739	816	+10.4%	7	39	+474.8%
P O I N T !	フ レ ー バ ー	飲料等が好調に推移したものの、為替が円安に推移したことで輸入原材料価格が上昇				
	フ レ グ ラ ン ス	ランドリーケア等が好調に推移したものの、為替が円安に推移したことで輸入原材料価格が上昇				
	ア ロ マ イ ン グ リ デ ィ エ ン ツ	海外向けスペシャルティ品が好調に推移				
	フ ァ イ ン ケ ミ カ ル	欧米向け医薬品中間体が好調に推移				
	そ の 他	不動産賃貸事業に係る賃貸収入等で構成				

※2024/3実績において、フレーバーとアロマイングリディエンツ間で一部金額調整

四半期決算推移

売上高

[単位：億円]

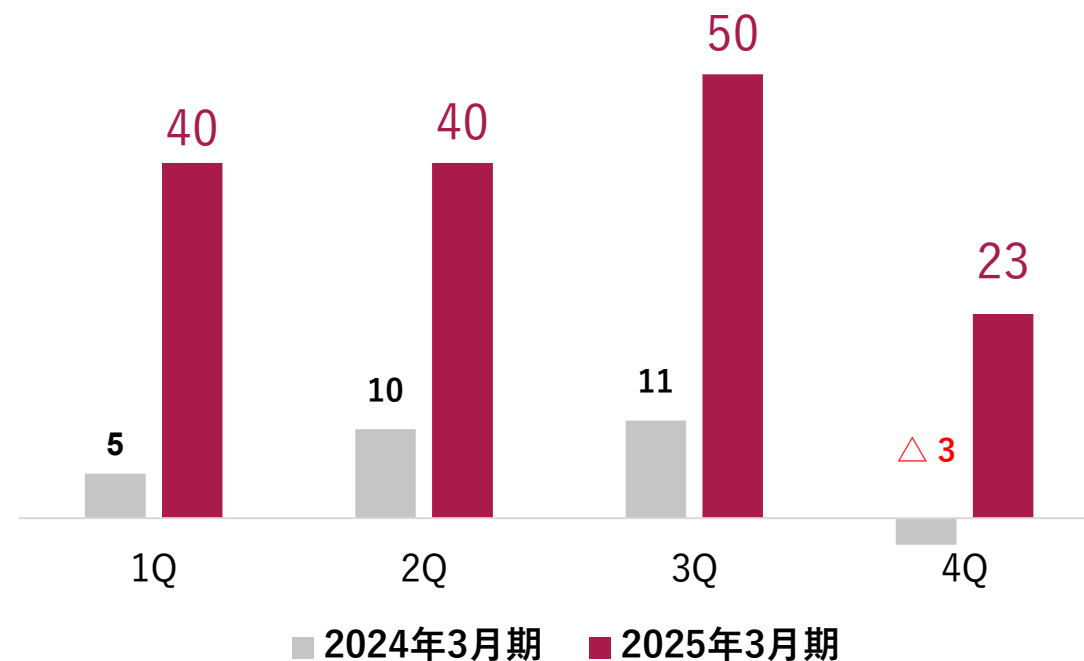


POINT!

- ・ 4四半期連続で前年同期比増収達成
- ・ 4Qは季節性および医薬品中間体の出荷タイミングによる減少

営業利益

[単位：億円]



POINT!

- ・ 4四半期連続で前年同期比増益達成
- ・ 4Qは主に売上減少に伴う売上総利益減による影響

III. 2026年3月期 通期業績予想

為替の前提、感応度

為替の前提

	2025/3 通期実績	2026/3 通期予想	前期比
USD	152円	150円	△2円
EUR	164円	160円	△4円

為替の感応度（1円円高／円安のケース）

	売上高に対する影響	営業利益に対する影響
USD	約6億円減収／増収	約20百万円減益／増益
EUR	約3億円減収／増収	約10百万円減益／増益

2026年3月期 通期業績予想

[単位：億円]	2025/3	2026/3 予想	前期比
売上高	2,292	2,300	+0.3%
営業利益 営業利益率	153 6.7%	125 5.4%	△18.5% △1.3P
経常利益	153	130	△15.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	133	117	△12.2%
E B I T D A	235	215	△8.3%
R O E	9.8%	8.0%	△1.8P
期中平均為替レート USD	152円	150円	△2円
期中平均為替レート EUR	164円	160円	△4円

POINT!

売上高

- アジア、日本のフレーバー、欧州のフレグランスが伸長。ファインケミカルは主要顧客向け製品切り替えの影響で一時的に出荷減少

営業利益

- 出荷数量・売上総利益率は前期比改善するが、販売・管理体制強化に伴う販管費率上昇に加え、前期比では特殊要因の影響で減益

経常利益

- 26年3月期の営業外損益は主に受取配当金。外貨建債権債務の期末評価替えに伴う為替差損益は発生しない見込み

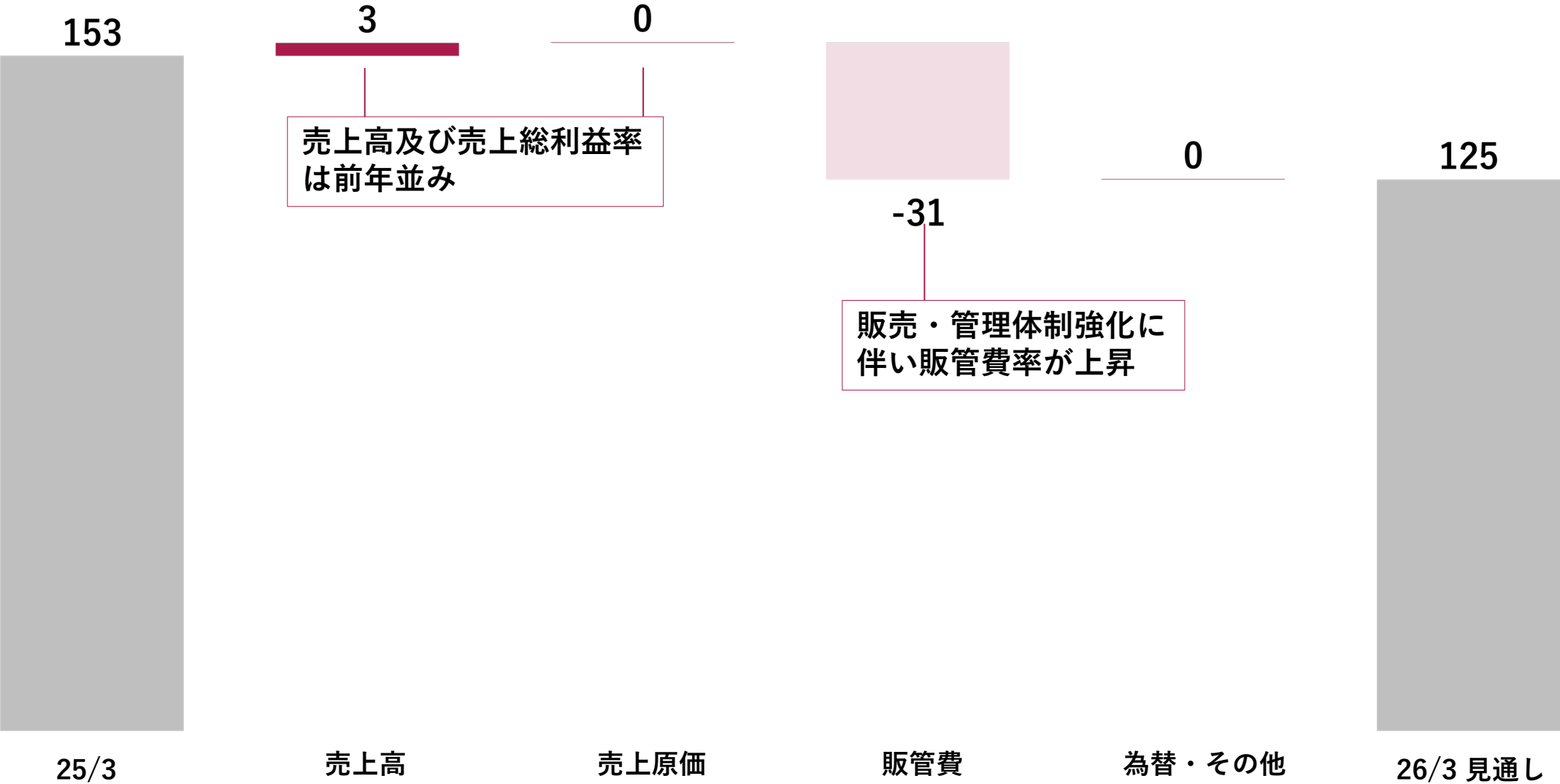
ROE

- 営業利益減少により前期比低下。中計目標の8.0%を目指す

営業利益の増減分析

[単位：億円]

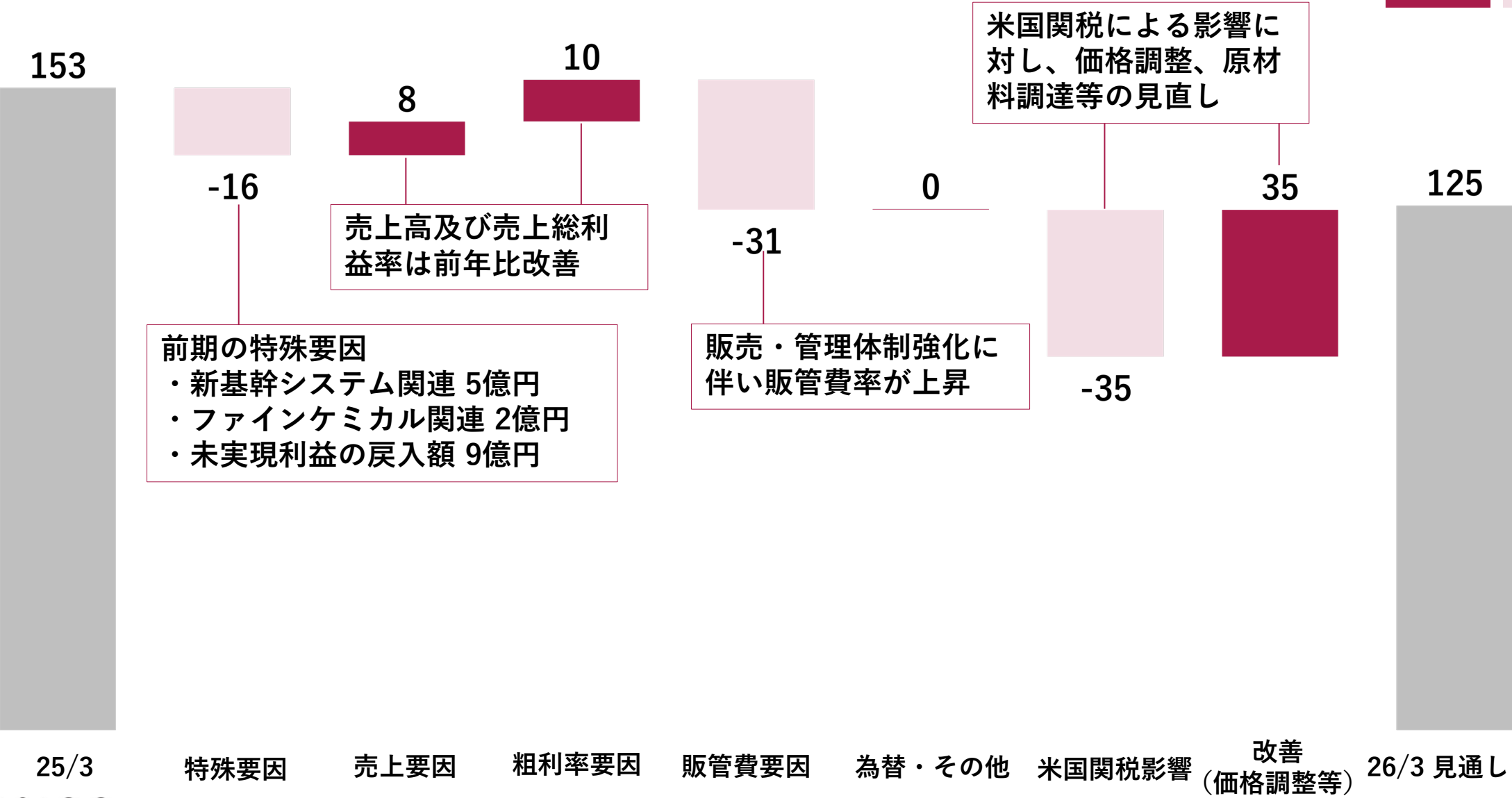
増益 減益



営業利益の増減分析

[単位：億円]

増益 減益



地域セグメント

[単位：億円]	売上高			営業利益		
	2025/3	2026/3 予想	前期比	2025/3	2026/3 予想	前期比
日 本	736	738	+0.3%	45	25	△43.4%
米 州	665	651	△2.1%	26	30	+15.1%
欧 州	393	400	+1.8%	25	17	△32.6%
ア ジ ア	498	511	+2.5%	49	53	+8.0%
調 整	-	-	-	9	-	-
合 計	2,292	2,300	+0.3%	153	125	△18.5%
P O I N T !	日 本	欧米向け医薬品中間体の出荷減少により減益				
	米 州	前期特殊要因により減収も、粗利率改善により増益				
	欧 州	新基幹システムに係る償却費等により販管費率が上昇する影響で減益				
	ア ジ ア	フレーバーの販売数量増加により増益				
	調 整 ・ そ の 他	2025年3月期の9億円は、連結決算上の未実現利益消去の期首戻入額				

事業セグメント

[単位：億円]	売上高			営業利益		
	2025/3	2026/3 予想	前期比	2025/3	2026/3 予想	前期比
フ レ ー バ ー	1,198	1,233	+2.4%	52	64	+19.3%
フ レ グ ラ ン ス	745	759	+1.5%	20	11	△48.8%
ア ロ マ イ ン グ リ デ ィ エ ン ツ	157	150	△0.3%	26	17	△21.2%
フ ア イ ン ケ ミ カ ル	178	144	△18.3%	44	22	△51.4%
そ の 他	14	14	+0.6%	12	11	△10.0%
合 計	2,292	2,300	+0.3%	153	125	△18.5%
POINT!	フ レ ー バ ー	アジア、日本セグメントの増収を主因に増益				
	フ レ グ ラ ン ス	フランス子会社における新基幹システム導入費用を主因に販管費率上昇				
	ア ロ マ イ ン グ リ デ ィ エ ン ツ	日本における生産体制強化に伴うコスト増を主因に減益				
	フ ア イ ン ケ ミ カ ル	主要得意先の製品切替タイミングによる販売数量減少影響により減益				

設備投資・減価償却費・研究開発費

[単位：億円]

	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3 予想
設備投資	82	105	118	130
減価償却費	74	79	81	90
研究開発費	142	157	177	190

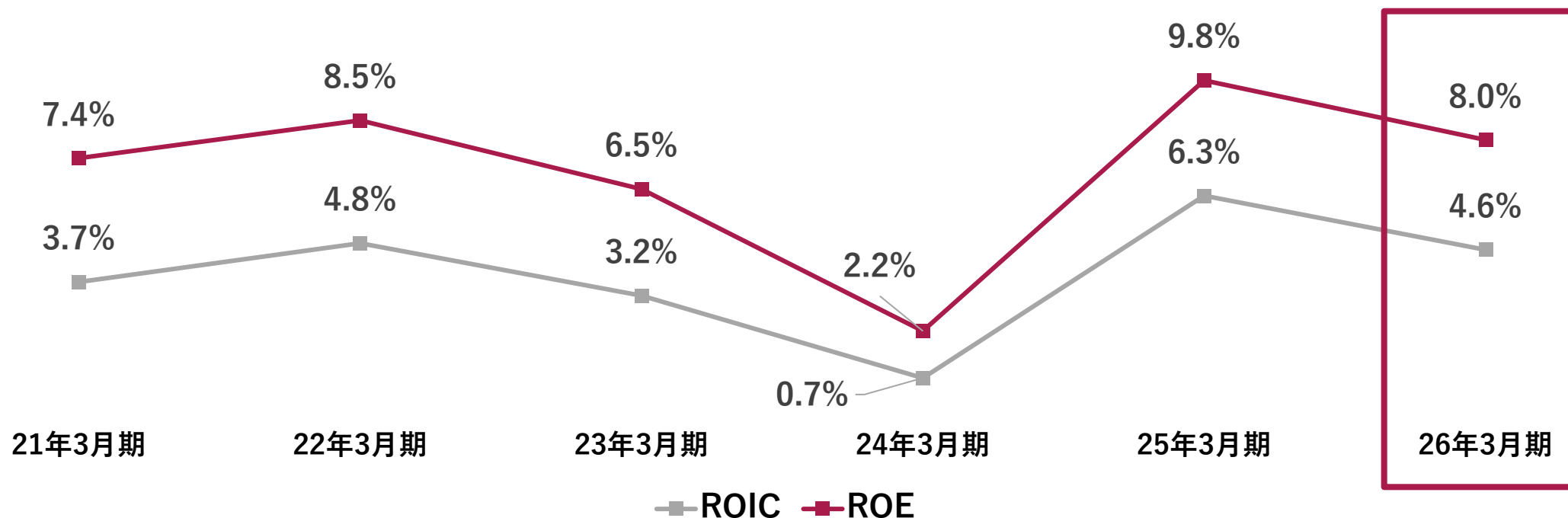
売上高 研究開発費率	7.6%	8.0%	7.7%	8.3%
---------------	------	------	------	------

POINT!	設備投資	欧州子会社における新基幹システム導入費用を中心に海外投資額が増加
	減価償却費	磐田工場の医薬品中間体生産設備、海外拠点における新基幹システムの稼働に伴い増加
	研究開発費	海外拠点の人員増強により増加

IV. 資本政策

資本収益性に関する分析

[単位：億円]

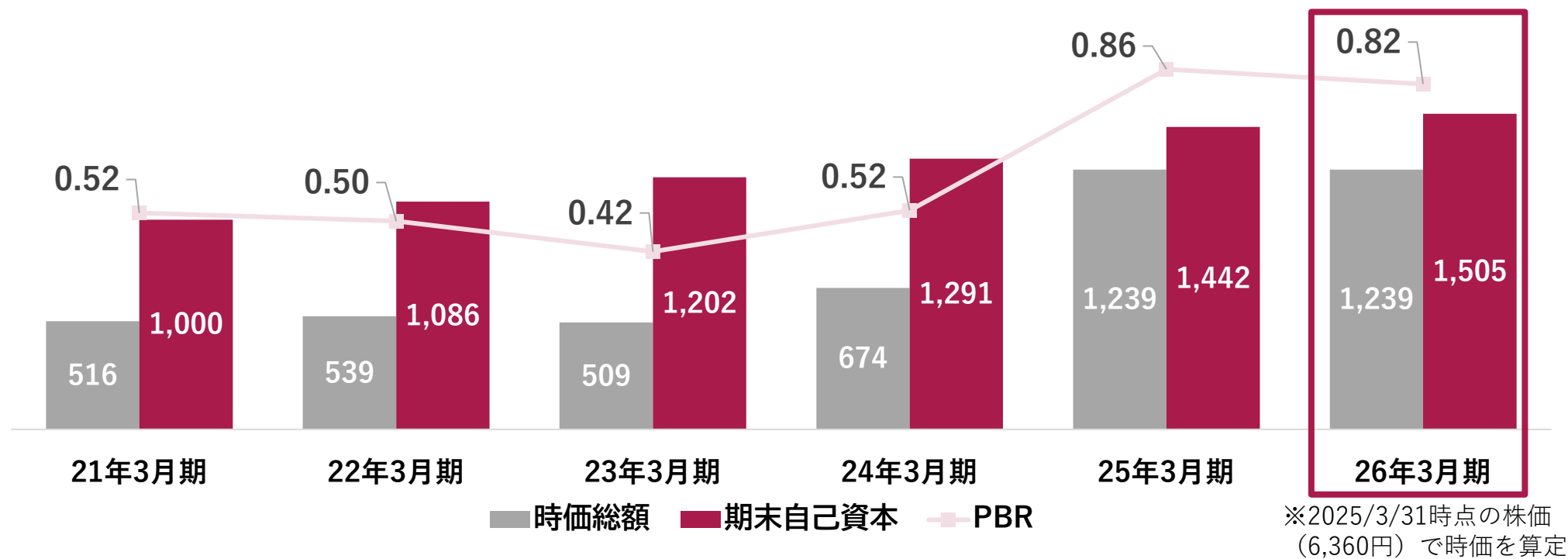


POINT!

- 26年3月期は、前年比で営業利益が減益となる見込み。政策保有株式の一部売却を継続
 - ROEは8.0%
 - ROICは4.6%

市場評価に関する分析

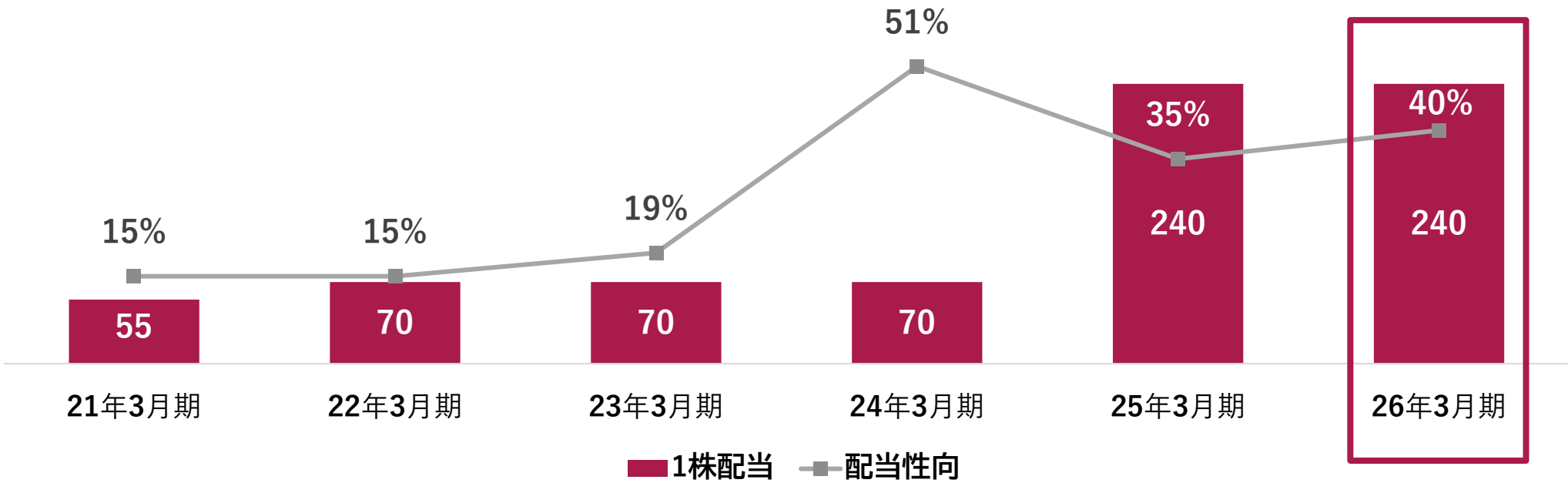
[単位：億円]



POINT!

- PBRは、直近では0.8倍を超える水準まで回復したものの1倍を安定的に超える水準にはない
 - 安定的な配当政策の継続、定量目標の達成
 - 中長期保有の国内及び海外投資家を中心に面談
 - 2025年9月30日を基準日として株式分割（1株⇒5株）を実施し、投資しやすい環境を整備

株主還元



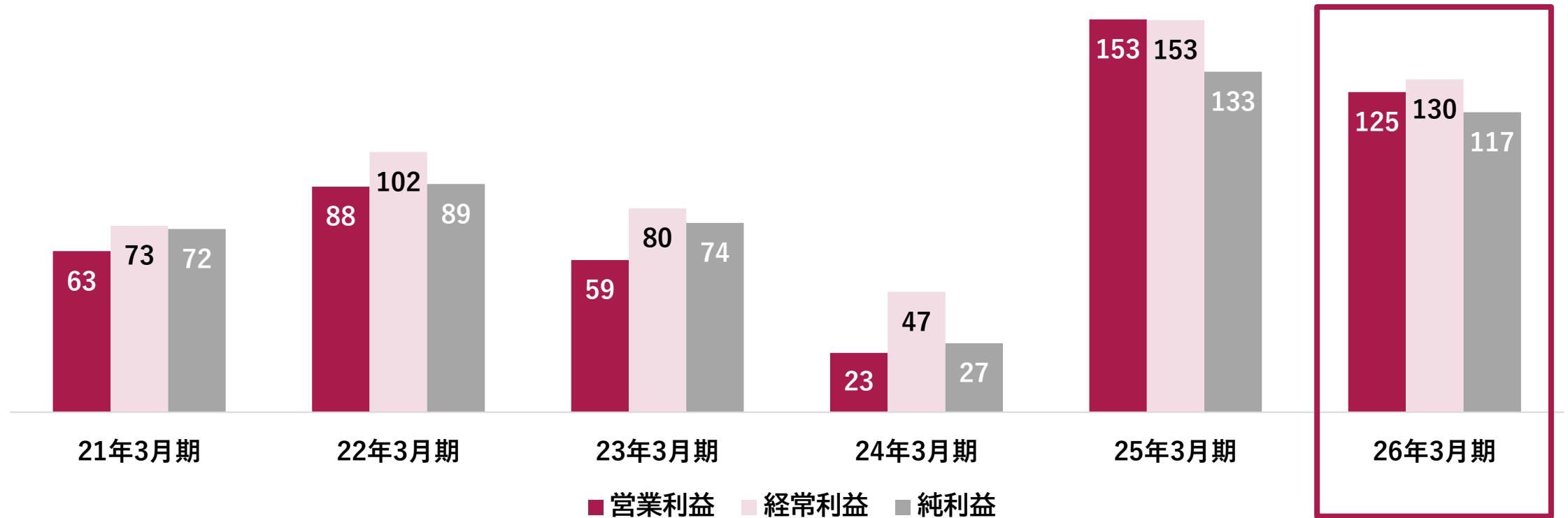
配当総額	11億円	14億円	14億円	14億円	47億円	47億円
DOE(%)	1.1	1.3	1.2	1.1	3.4	3.2

POINT!

- 26年3月期は1株配当240円の予想（株式分割考慮前）
- 配当性向は40%を予想、中計目標の30%を上回る
- DOEは3.2%を予想、中計目標の3%を上回る

【連結】段階利益

[単位：億円]

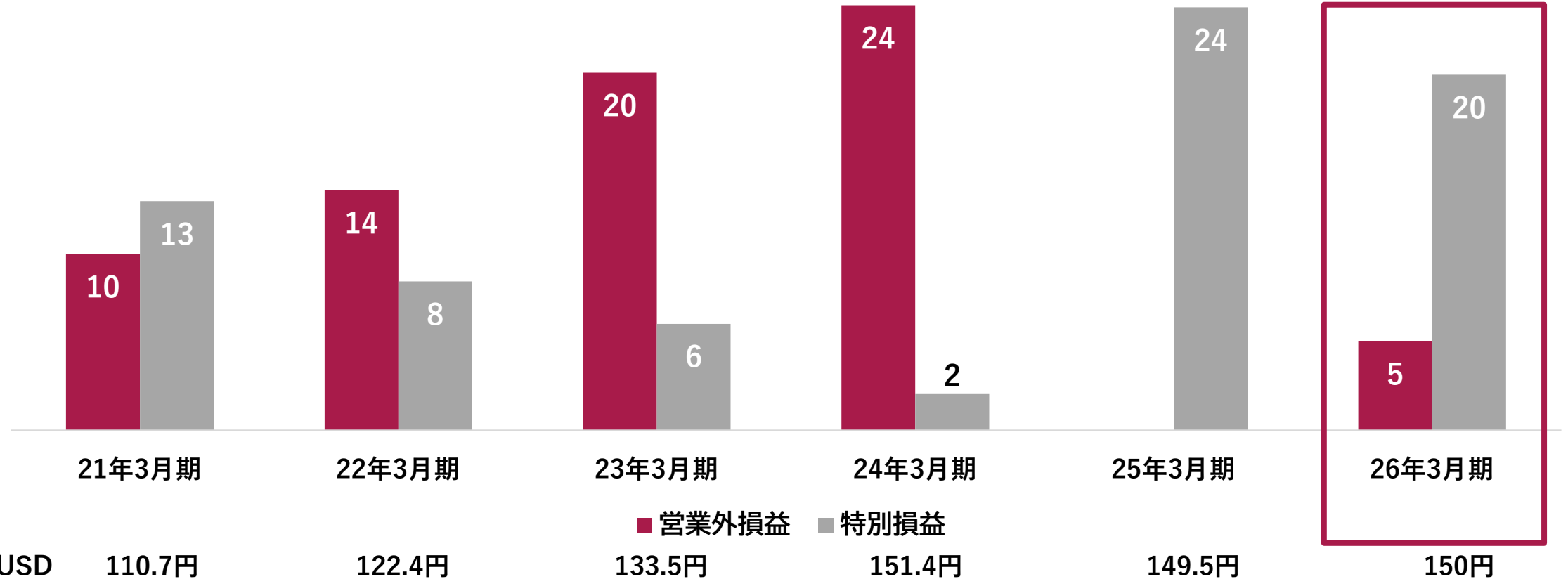


POINT!

- 26年3月期の各段階利益は減益の見込
- 各段階利益への主な影響項目
 - 経常利益：投資有価証券の受取配当金、外貨建て債権債務の為替換算評価替え影響
 - 特別損益：政策保有株式の売却

【連結】 営業外損益、特別損益

[単位：億円]



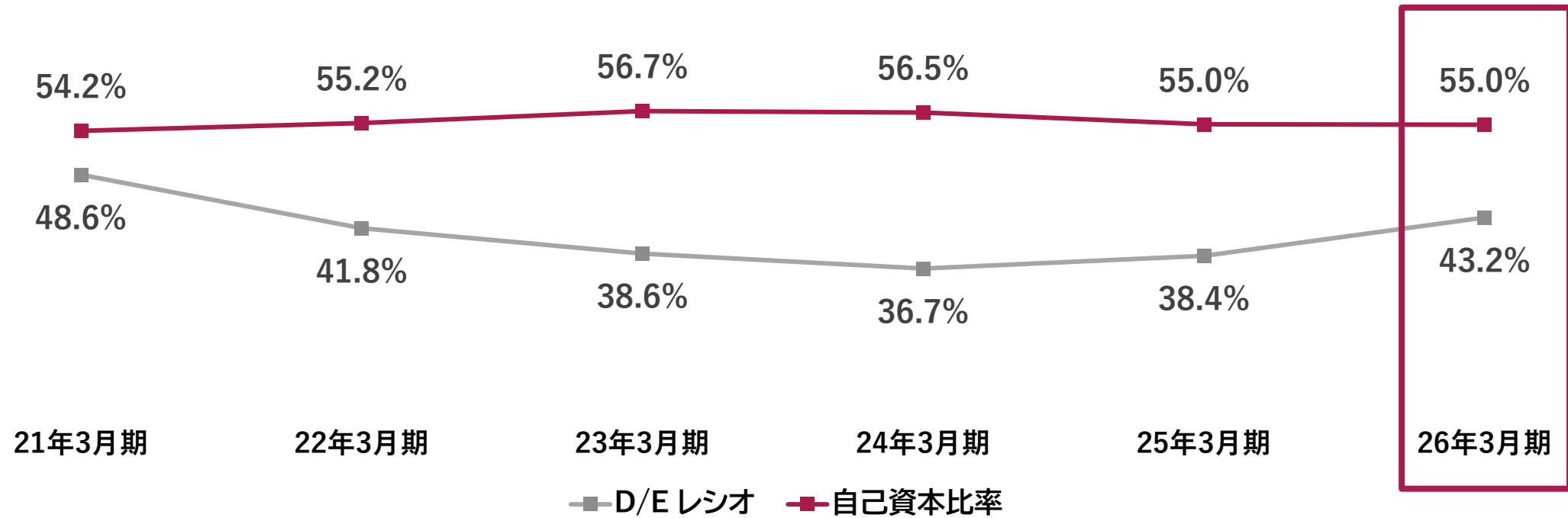
USD 110.7円
* 期末レートを記載

POINT!

- 26年3月期の営業外損益は主に受取配当金。外貨建債権債務の期末評価替えに伴う為替差損益の発生は見込まない
- 26年3月期の特別損益は主に政策保有株式の売却

【資本構成・資本効率化】D/Eレシオ、自己資本比率

[単位：億円]

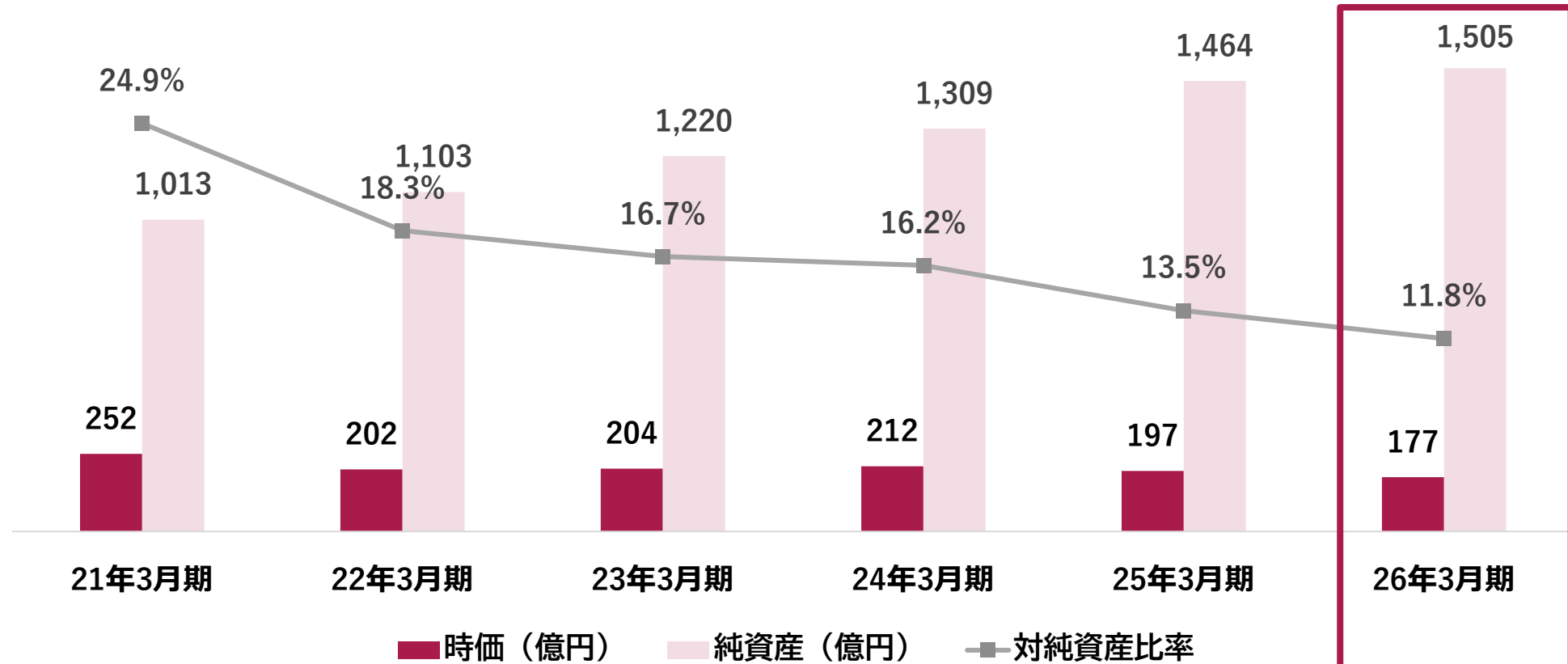


POINT!

- 26年3月期以降の成長投資に備え借入金が増加することで、D/Eレシオは上昇する見込み
- 主な成長投資
 - 磐田工場 医薬品中間体生産設備
 - 中国新工場(張家港)
 - 鎌倉新研究所

【資本構成・資本効率化】政策保有株式

[単位：億円]

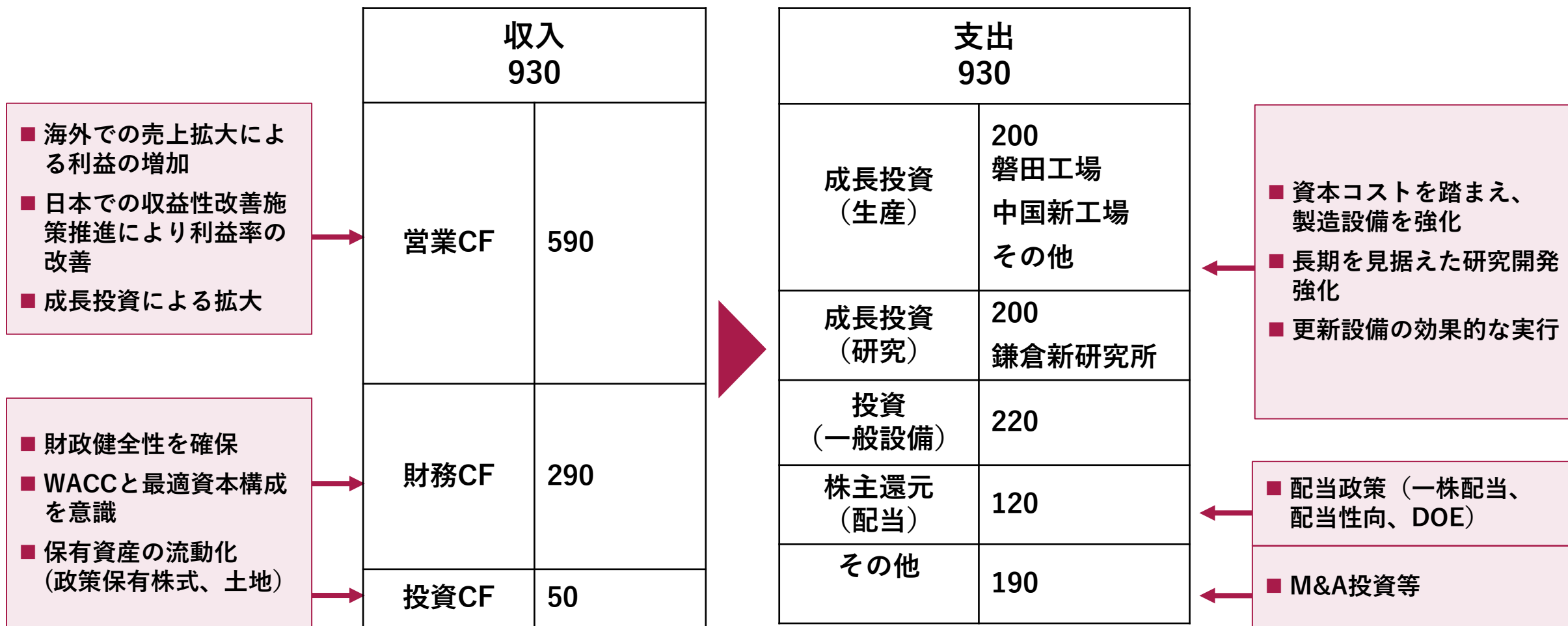


POINT!

- 26年3月期は前年に引き続き政策保有株式の一部売却を進め、対純資産比率が11%台へ低下する見込
- 27年3月期までに10%を目指す

中期3ヵ年経営計画【NGP-2】 キャピタルアロケーション

[単位：億円]



営業CF、投資CFにより獲得した資金を成長投資と株主還元へ配分

2026年3月期 資本政策関連指標予想

	2026/3 予想	NGP-2 (25/3公表)
R O E	8.0%	8.0%～
自 己 資 本 比 率	55%	55%(最終年度)
政 策 保 有 株 式 対 純 資 産 比 率	11.8%	10%(最終年度)
1 株 配 当	240円	240円～
配 当 性 向	40%	30%～
D O E	3.2%	3.0%～

POINT!

ROE

■ 2026年3月期は中計目標値の8%を目指す

1株配当

■ 2026年3月期は240円を予想（株式分割前ベース）

DOE

■ 2026年3月期は中計目標を上回る3.2%を目指す

V. トピックス

インド・ベンガルールにテイスト・イノベーションセンター開設

■ 概要

- 名称：Takasago India Taste Innovation Centre (TITIC)
- 所在地：インド・ベンガルール
- 事業内容：フレーバーの創香と開発、官能評価、アプリケーション、消費者傾向把握や市場調査といったフレーバーの研究開発およびセールス&マーケティング活動からなるフレーバー事業機能
- 開設年月：2025年05月01日

■ 背景

- ターゲット顧客の多くはベンガルールに拠点設置
- 重点顧客との関係を強化し、売上拡大を図る

■ 目的

- 重要顧客との深いパートナーシップを育み、市場に合う風味作り、イノベーション発信拠点となり、このダイナミックな地域内で市場を拡大するための極めて重要なプラットフォームとなる
- 成長軌道を加速させ、重要な市場における競争力を強化



フランス子会社のドバイ現地法人設立およびクリエイションラボ新設

■ 概要

- 名称：未定(ドバイ現地法人)
- 所在地：UAE・ドバイ
- 事業内容：ドバイ現地法人設立、クリエイションラボ新設
- 開設年月：2025年10月予定

■ 背景

- 中東地域、特にサウジアラビア、アラブ首長国連邦ではファインフレグランスの需要が急増しており、フレグランス産業は今後も成長が期待される
- 中東諸国では、高価でラグジュアリーな製品が好まれるため、フレグランスメーカーにとっては利益率が高い市場

■ 目的

- ビジネス、輸出のハブとされるドバイにおける成長、収益性の拡大
- 現地にクリエイションラボの機能を持たせることで、現地顧客との直接交流を増加、ニーズ対応へのリードタイムを短縮
- 非常にダイナミックである、中東地域の重点化



Move Forward



本日は、ありがとうございました。

※注意事項

本資料は、2025年5月26日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

問合せ先：IR/広報室

TEL: 03-5744-0523 FAX:03-5744-0512

<https://www.takasago.com/ja>

E-mail: ir@takasago.com

VI. Appendix

創業精神・企業理念・Vision 2040

創業精神

技術立脚の精神の則り社会に貢献する

企業理念

香りを原点とする革新的な技術を通して、
新しい価値を創造し続ける

Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

1. 多様な価値観を尊重する
2. 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
3. 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
4. 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社

Vision 2040

NGP-2			
基本方針	海外の成長	国内の収益改善	サステナブルな経営
Key Success Factors	- 事業軸の成長戦略 - 新規顧客の開拓 - 売上総利益の拡大 - 海外サプライチェーンの最適化 - 先端科学による競争力のある技術の創成	- 売上総利益の最適化 - 費用の構造改革 - 新領域の開拓 - フレーバー・フレグランス製品生産効率性の追求 - 合成事業生産体制の再構築 - 国内サプライチェーンの最適化 - 先端科学による競争力のある技術の創成	- Sustainability2030の実行 - コーポレート基盤の強化 - 人的資本の価値最大化 - 業務遂行力の向上 - SDGsへの貢献を意識した製品の開発

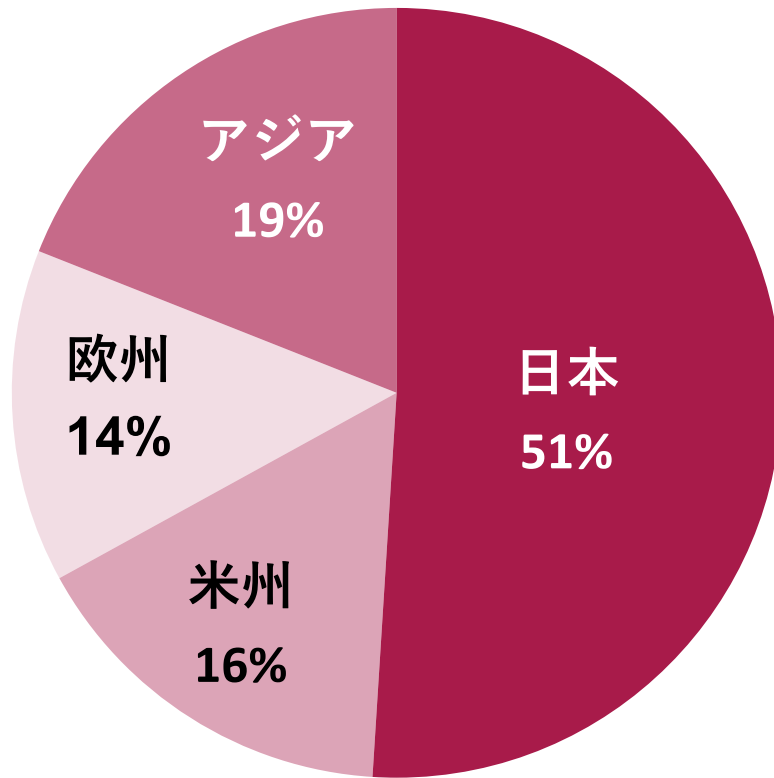
各事業の特徴

	フレーバー	フレグランス	アロマ イングredients	ファイン ケミカル
製品用途	飲料、製菓、スープ、 デザート等食品全般	衣料用洗剤・柔軟剤、 化粧品、芳香剤等	香料の原料 (フレーバー、 フレグランス)	医薬品中間体、 機能性材料、触媒、 農薬中間体
主要得意先	食品メーカー	日用品メーカー 化粧品メーカー	同業他社、自社使用	医薬品メーカー 電機電子メーカー
競合先	香料会社(同業)等	香料会社(同業)等	香料・化学メーカー、 天然品市場(メントール)	化学メーカー等

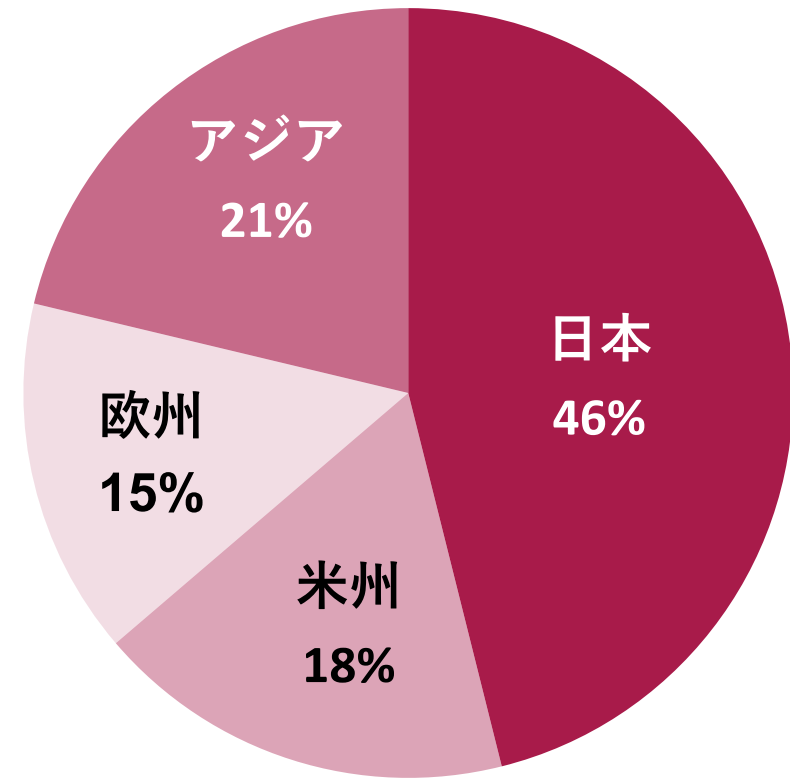
4つの事業の成長

事業	方針、施策
フレーバー 	- 事業戦略や設備・研究投資を通じて、新規顧客の獲得や新興国でのビジネス拡大 - 製品ポートフォリオ適正化により、収益性の改善 - 各地域でのニーズを満たす素材/製品開発とグローバル連携による競争力を強化
フレグランス 	- 人的/技術のグループ内連携や設備・研究投資を通じて、パーソナルケアに注力 - 東南アジア、中南米、インドなど新興国でのビジネスを拡大 - 原材料費や製造経費におけるマネジメント力を強化推進 - 事業基盤の強化（人材、R&D、Consumer Insights & Market Research）
アロマ イングリエディエント 	- 農産業分野などの新領域、新興国での既存ビジネス拡大 - 付加価値の高いスペシャリティ製品の拡充により収益性の改善 - 生分解性やバイオベース値などに配慮し、環境にやさしい新規品の開発
ファインケミカル 	- 医薬品中間体カテゴリーの拡大 - 新工場設備稼働による製品供給能力の強化 - 触媒技術や連続フロー技術の深化により競争力の向上

フレーバー事業 地域別 売上実績

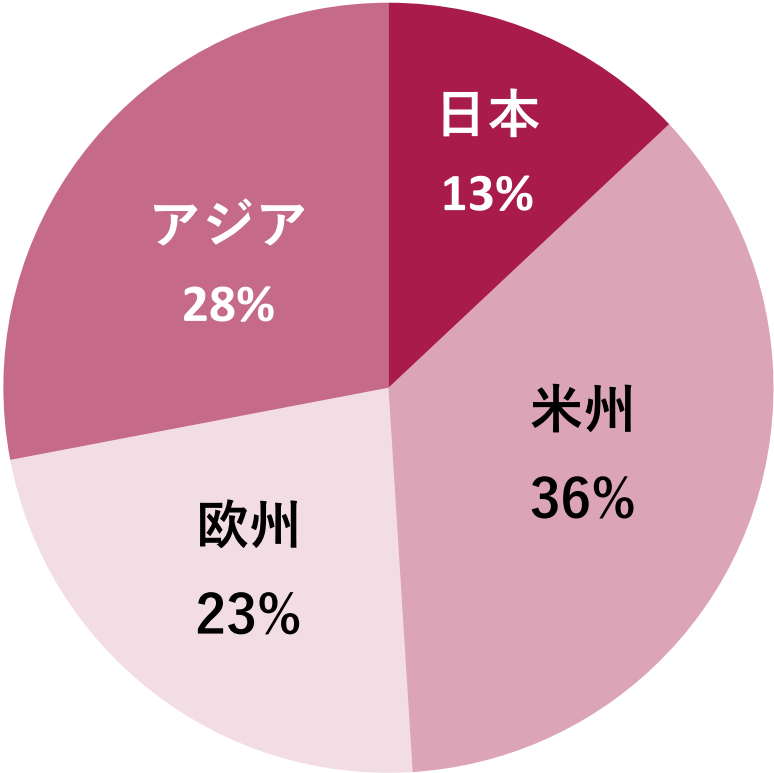


2024年3月期

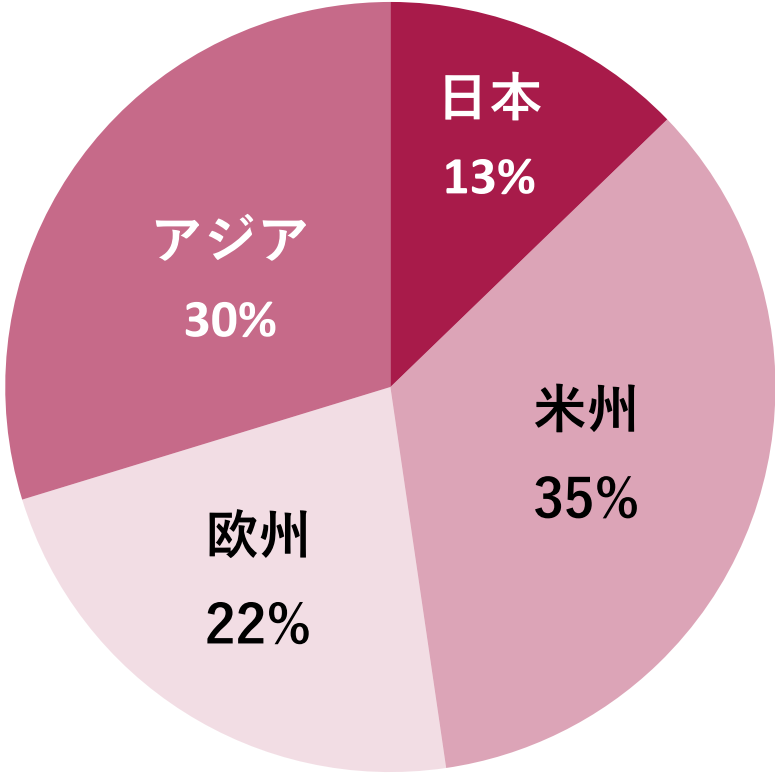


2025年3月期

フレグランス事業 地域別 売上実績

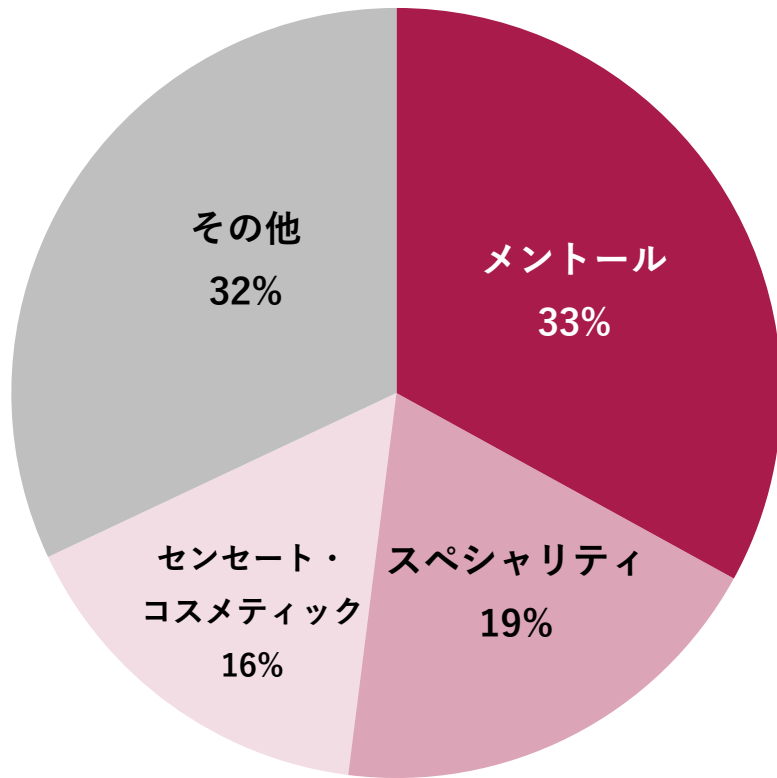


2024年3月期

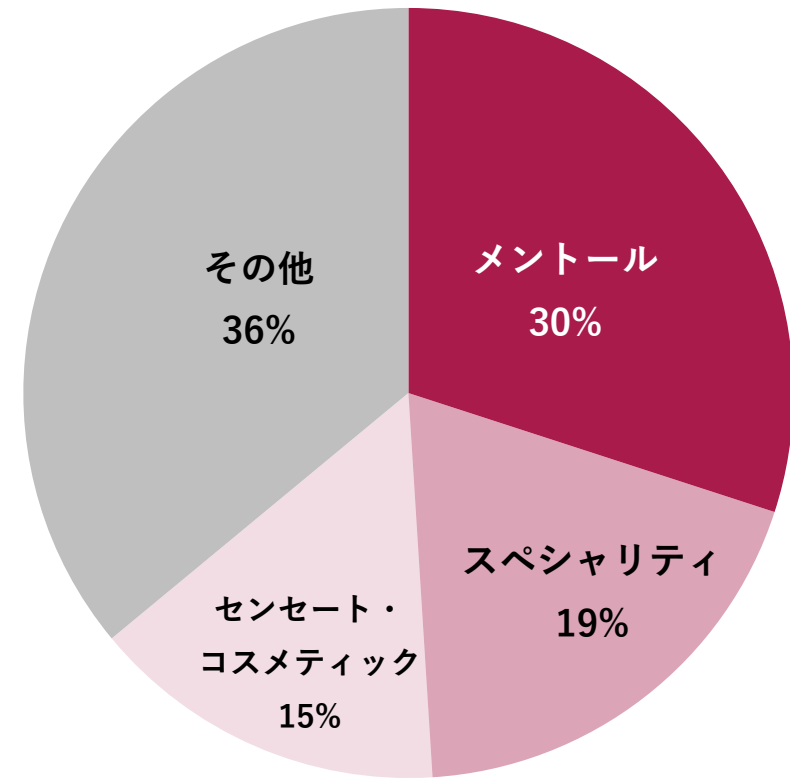


2025年3月期

アロマイングリディエンス事業 カテゴリ別 売上実績

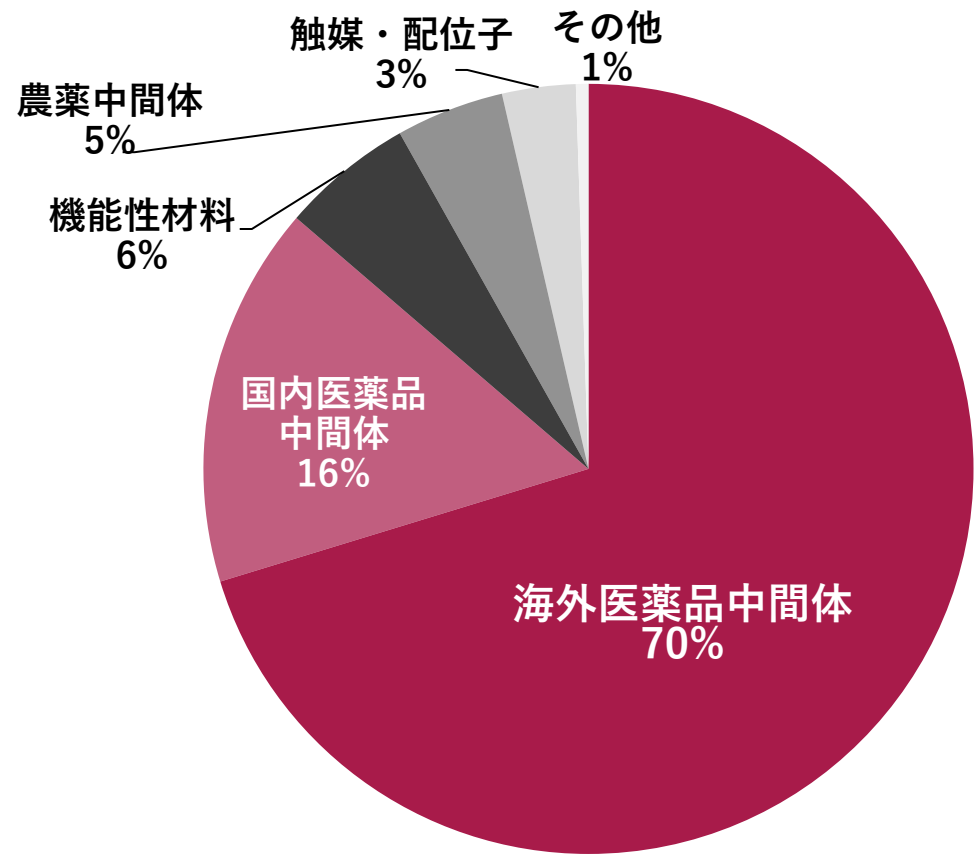


2024年3月期

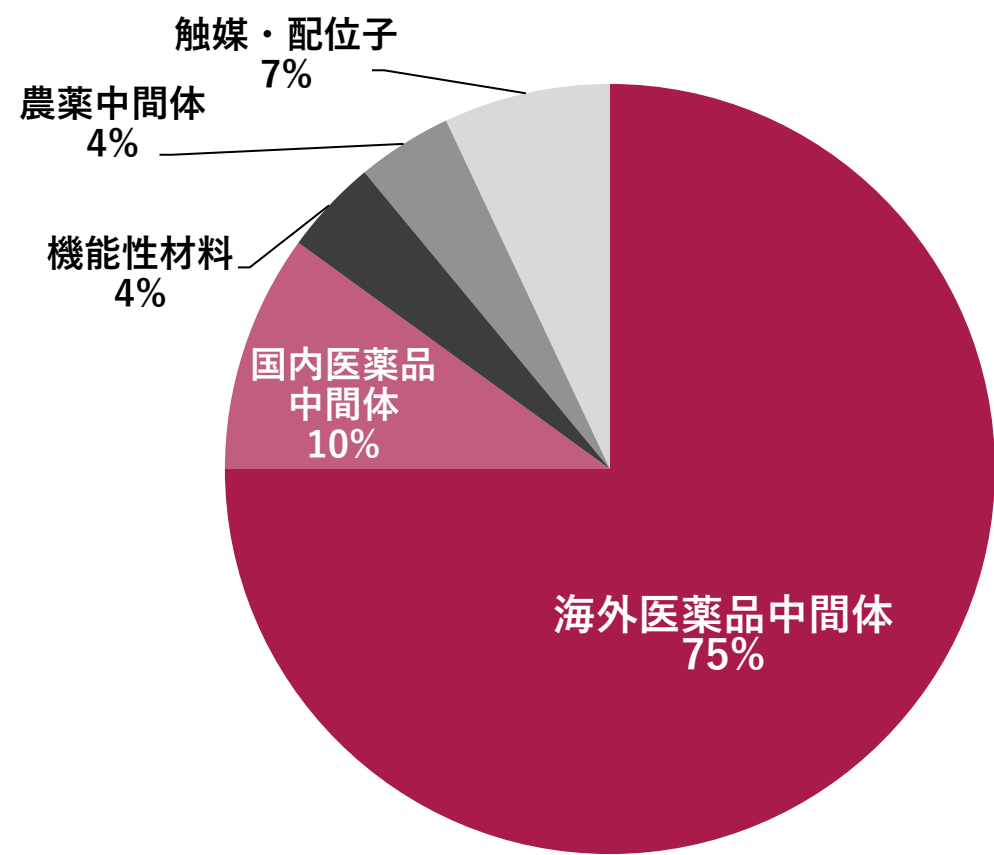


2025年3月期

ファインケミカル事業 カテゴリー別 売上実績



2024年3月期



2025年3月期